



<http://www.nul.nagoya-u.ac.jp/koho/kanto/>

目 次

学術論文を電子公開する際の著作権問題とは？……	1
韓国図書館訪問報告……	2
2010年秋季特別展水田文庫新収蔵記念 「アダム・スミスと啓蒙思想の系譜」……	5
文学図書室のいま……	7
第2回図書館をよくする学生アイデアコンテスト報告…	8
ホームcomingデイ図書館行事……	8
利用者からみた図書館……	10
本学教員著作物の寄贈リスト……	11

学術論文を電子公開する際の著作権問題とは？

— 著作権セミナー：学術論文執筆と著作権 —

平成22年12月13日に附属図書館、高等教育研究センターの共催で、「学術論文執筆と著作権～博士論文を書くときに知っておきたい基礎知識～」と題して著作権セミナーを開催しました。

当日は小雨の降る中でしたが、多くの大学院生および教職員の参加がありました。

講師には、著作権に関する著作を多く発表されている黒澤節男先生（九州大学附属図書館研究開発室特別研究員）をお招きし、ご自身の体験を絡めた具体例を示しながら大変興味深い講演をしていただきました。

なかでも、印象に残った話題をいくつか列挙します。

■適切な引用方法について

引用を行うには以下の要件を満たす必要があります。

- ・報道、批評、研究などのために「公正な慣行に合致」かつ「正当な範囲内」
- ・引用部分とそれ以外の部分との「主従」関係及び「明瞭な区分」
- ・引用する必然性
- ・出所の明示

また、白書に関しては、説明の材料としてならば「大幅」な転載が可能であるとの説明がありました。

写真の引用についても、写真の著作権の保護期間に注意することや、文化財等の写真の引用

は著作権法上の問題がなくても所有者に許諾を取ることが慣例になっていることなどの説明もありました。

■著作者人格権と財産権としての著作権

著作者人格権は、著者固有の権利であり一身専属的な権利なため、他者に譲り渡したりすることはできません。一方、財産権としての著作権は排他的・独占的権利であり、他者に全部または一部の譲渡が可能です。

たとえ論文投稿規程により著作権が学協会へ移譲されても、著作者人格権は移譲されないため、同一性の保持等は主張できることの説明がありました。

■学術機関リポジトリへの登録・公開

学術機関リポジトリへの登録・公開には、著作権者が複製権と公衆送信権を許諾するだけで、著作権の移譲等は発生しないとの説明がありました。

自分の著作権を譲渡することになると誤解をして心配されている方もいらっしゃるというお話でした。

■博士学位論文の学術機関リポジトリ登録

九州大学芸術工学院は1996年から要旨、全文を著者の許諾を得て図書館webサイトに掲載していましたが、現在は許諾を得て学術機関リポジトリに登録・公開しており、アクセスがあるそうです。

名古屋大学でも、学術機関リポジトリに登録・公開した博士学位論文には多くのアクセスがあります。博士学位論文は入手しにくい文献であり、容易に読むこともできないので、論文に関心を持った方が多くいることがわかります。

■まとめ

国立国会図書館法上、国立国会図書館が所蔵している博士学位論文をデジタル化し、国立国会図書館の施設内で閲覧に供することは既に認められています。また、著者が許諾すればインターネットを通じて世界中に公開することも可能です。

このように博士学位論文を始め学術論文が今まで以上に多くの人々の目に触れる可能性が高

くなってきており、それらを執筆する際には、適切な引用を行うことがますます重要になっているといえます。



講演会の模様

(情報システム課)



韓国図書館訪問報告 ーデジタル化への対応についてー

次良丸 章 夏目 弥生子 加藤 淳一

2010年12月15日から17日の3日間に渡り、寒波到来中の韓国ソウル市内の図書館を訪問してきました。

韓国はインターネットの普及率が高いIT先進国であり、国の政策としてデジタル情報資源の収集と効率的な利用を目指しています。

そこで、ソウル市内で先進的な取り組みを行っている図書館を訪問し、電子環境下での図書館機能の実例を中心とした調査を行いました。

訪問したのは、ソウル市立正読（チョンドク）図書館、ソウル大学校図書館、国立デジタル図書館、延世（ヨンセ）大学校図書館の4館です。

■ソウル市立正読図書館

正読図書館は、世界遺産である景福宮（キョンボックン）や昌徳宮（チャンドクン）と同じ鍾路区（チョンノグ）にあり、1977年に旧京畿高等学校の建物を利用して創設された公共図書館です。

蔵書数は、図書約50万冊、雑誌約1,110種類で、さらに生涯学習事業や学校図書館支援事業も行っています。

デジタル資料専用の閲覧室があり、インターネット（ゲームや有害サイトはフィルタリング）、電子ブック、電子ジャーナル、国立中央図書館

原文サービス（後述の国立デジタル図書館がデジタル化した資料で、全ページの画像が利用できる）を提供しています。

日本で見かけないサービスとしては、経済的に恵まれない小学校低学年の生徒に無料で学習サポートを行っている夢自慢（クムジャラン）教室がありました。放課後、子供たちが図書館に来館して、職員に基礎科目（国語、英語、数学、漢字）などを習っているということでした。

また、8:00～23:00（夏期は7:00～23:00）と長時間開室している閲覧室がありました。学校教師を退職したボランティアが閲覧室の監督をしており、閲覧室内も机と椅子しかなく、学習室的な雰囲気でした。



ソウル市立正読図書館

観光地に近いこともあり、観光客が立ち寄ることもあるためとのことですが、英語だけでなく日本語の利用案内も用意されていたことには感激しました。

■ソウル大学校図書館

ソウル大学校は、学生約26,000人、教職員約5,000人、16学部設置されている国立の総合大学です。

ソウル大学校図書館は、旧京城帝国大学図書館の建物と蔵書を母体に発足し、蔵書数は約400万冊、雑誌約6,500種類、電子ジャーナル約3万タイトルを提供しています。

今回訪問したソウル大学校中央図書館はメインキャンパスである冠岳（クアナク）キャンパスにあります。



ソウル大学校中央図書館

ソウル大学校中央図書館で目を引いたのは携帯電話を用いたデジタルサービスです。

携帯電話でフロアごとの座席占有状況を参照することが可能となっています。また、あらかじめユーザIDの2次元バーコード画像をダウンロードしておくことで、携帯電話を利用証として使用することができ、図書館の入退館や貸出手続きに使用することが出来るようになっていました。見学中にも携帯電話を利用証代わりにしている利用者を多く見かけました。

OPACの検索結果も、ショートメッセージサービスにより携帯電話に送信することができ、その結果を手に資料を探す利用者の姿もありました。

1階には24時間利用できる閲覧室があり、冬期休暇期間であってもかなり賑わっていました。韓国では家に帰って勉強するより、図書館で勉強するのが一般的なのでいつでも席が埋まって

しまい、そのため座席予約システムが発達しているのだそうです。退館管理システムと連動しているため座席を占有したまま昼食に出かけることができません。効率的な施設の運用方法だと思いました。

2階～4階にある蔵書検索用の端末の中に、企業から寄贈された端末がありましたが、どれにも寄贈した企業の広告（動画CMが流れていること）がありました。図書館の寄贈を含めて、熱心に寄附を受け入れる活動をしているようです。

他にもVOD（Video on Demand）サービスを行っており、図書館が選択して、学内で行われた学術会議、シンポジウム、講演会等を録画・編集してWeb上に公開し、研究支援を行っていました。ちなみ図書館で行っている講習会の模様も提供しており、講習会に参加できなかった利用者に提供して参考にしてもらっているそうです。

■国立デジタル図書館

国立デジタル図書館は、2009年5月に電子的資料を収集・整理・保存・閲覧するために開館した図書館です。digitalとlibraryから作られたdibraryというブランド名を使って、バーチャルなサービスであるdibrary portal (<http://www.dibrary.net>) と最新のIT施設であるdibrary Information Commonsとから成っています。

国立中央図書館に隣接しており、連結しているので国立デジタル図書館部分はB1階～B3階となっていました。



国立デジタル図書館

ロビーに入ると吹き抜けになっていて、またガラス張りの壁面だったため、とても広く・明

るく感じる場所になっていました。

ロビーには、電子新聞・電子雑誌が誰でも読めるようになっていました。

B2階にあるProductivity Computer Clusterには多くのPCが置かれており、電子資料の閲覧・利用・制作をすることができるようになっていました。

他にも多言語対応コーナーでは、英語、日本語、中国語、フランス語、ベトナム語のOSを用意し利用できるようになっていました。

また、同じフロアにあったVideo/Audio/UCC Studiosでは、プロが使用する機材を一般の利用者が利用できる環境が用意されており、利用者自身が映像・音声資料の作成をすることができるようになっています。UCCというのは聞きなれなかったのですがUser Created Contentの略で、ユーザが作成公開する、主に動画コンテンツ（YouTubeみたいなもの）をいうようです。library portalにはそのUCCを公開するサイバー展示室があります。

■延世大学校図書館

延世大学校は、学生約30,000人、教職員約9,000人、23学部設置されている私立の総合大学です。

延世大学校図書館は、蔵書数は約210万冊、雑誌約16,000種類、電子ジャーナル約65,000タイトルを提供しています。

今回訪問した延世サムスン図書館は新村（シンチョン）キャンパスにあります。



延世大学校中央図書館（手前）と延世サムスン図書館（奥）

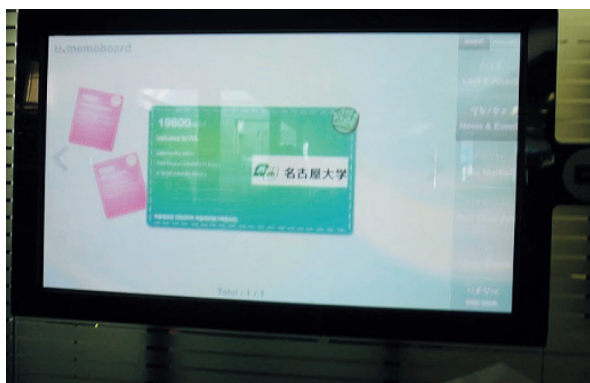
延世サムスン図書館は、2008年5月に既存の中央図書館に隣接して設置された図書館です。この結果、床面積が倍増し、蔵書収容とIT対応

の能力が格段に高まりました。

延世サムスン図書館自体は、その全体がラーニング・commonsの展開を十分に考慮した設計となっています。設置してあるPCの台数が多いだけではなく、利用者が持ってきたノートPCに対応するため情報コンセントと電源が設置されている机なども、すべてが洗練された使いやすいようなデザインでした。例えばロビーに設置されていたタッチ式の大型ディスプレイ（52インチ5台を一体化したもの）は映像と音声で大学・館内案内を表示することができます。U Memoboardと呼ばれる電子掲示板では、求人情報やイベント情報に加えて利用者がwebサイトから



タッチ式大型ディスプレイ



U Memoboard



オープンテラス

入力し、特定の相手にだけ表示させる電子伝言板機能も持っていました。

他にも、最上階にはカフェとオープンテラスがあり、非常に見晴らしがよい場所でした。利用者の憩いの場所になっているそうです。

延世大学校図書館では、2011年に既存の中央図書館のリモデリングを行い、伝統的な図書館機能を保持しながらも、ITへの対応を強化するそうです。デジタル環境下の新しい図書館像を目指して、攻め続ける図書館という印象を強く持ちました。

■まとめ

事前調査した上で訪問をしたのですが、実際に自分たちの目で見てみると、図書館が電子環境に対応しようと様々な試みを計画・実行していることがわかりました。

名古屋大学でも、ラーニング・コモンズはできましたが、さらに積極的に電子環境への対応を考えるべきだと思いました。また講習会映像の発信や携帯電話の活用など、今後のサービスを検討する良い機会になりました。

最後に、この機会を与えてくださった皆様と、お忙しい中対応していただきました、正読図書館、ソウル大学校図書館、国立デジタル図書館、延世大学校図書館の方々、通訳をしていただいた文さんに感謝の意を表します。

(じろまる・あきら 情報管理課

なつめ・やえこ 閲覧掛

かとう・じゅんいち 学術情報システム掛)



2010年秋季特別展

水田文庫新収蔵記念「アダム・スミスと啓蒙思想の系譜」

中 井 えり子

附属図書館は、2010年秋季特別展として、10月14日（木）から11月11日（木）までの平日及び土曜日に水田文庫新収蔵記念展及び講演会を経済学研究科との共催で開催しました。

この展示会は、水田洋日本学士院会員・名古屋大学名誉教授（1919～）が約60年にわたる研究生活において収集した蔵書約2万冊のうち7,000冊弱が「水田文庫」として附属図書館に収蔵されたことを記念して開催したもので、期間中600名余りが来場し、また授業の一環としても利用されました。

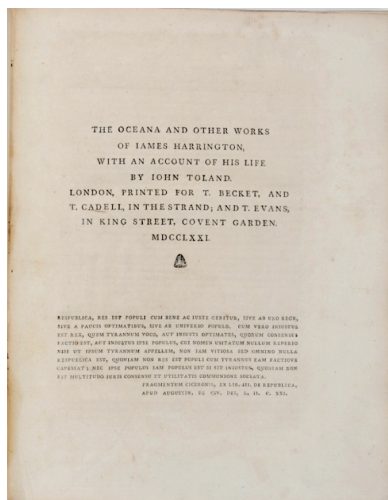
講演会（10月30日）では、水田名誉教授の「ぼく思想形成と蔵書形成」、京都大学経済学研究科長田中秀夫教授の「自然法、共和主義、スコットランド啓蒙—水田文庫と私の研究」及び関西学院大学経済学部篠原久教授の「アダム・スミス思想体系と啓蒙思想の遺産」の3講演が行われ、約130名の参加者に、水田名誉教授の思想形成と蔵書収集過程での思い出話や、スミスとその周辺の思想についての話題を提供しま

した。講演会の後、展示室に移動して、講師から直接展示解説をしていただきました。

展示資料は、16世紀末から19世紀半ばに出版されたスミスの先駆者、思想の継承者、同時代・後世の批判者といった、ヨーロッパ啓蒙思想につらなる思想家たちの著作の原典70点112冊が水田文庫から、また、特別展示として、『国富論』の初版本全2巻（経済学図書室蔵）が第一展示室に展示されました。さらに参考展示として、スミスの直筆署名のあるスコットランドの税関資料 *Board's orders 1788-1789*（経済学図書室蔵）及びスミスの旧蔵書でスミスの蔵書票が貼付された非国教会の牧師ニューカム・キャップの説教 *A sermon preached on the thirteenth of December, 1776*（中央図書館永井文庫蔵）も出展されました。

展示内容は、Ⅰ. 自然法思想から啓蒙思想へ、Ⅱ. スコットランド啓蒙思想、Ⅲ. アダム・スミス思想体系の形成、Ⅳ. アダム・スミス思想の批判と継承の四部構成です。第Ⅰ部では、政

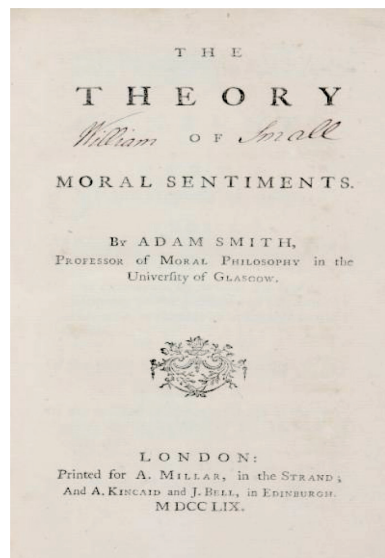
治、宗教、疫病などで混乱した17世紀の諸問題に取り組んだトマス・ホブズやジェイムズ・ハリントン、ユストゥス・リプシウス、自然法思想の発展に寄与したオランダのフーゴー・グロティウスやドイツのザムエル・フォン・プーフENDORFらの著作が含まれます。ホブズの『リヴァイアサン』は1651年出版と記載されている初版3種（ヘッド版、ベア版、オーナメント版）が展示されました。また、ハリントンの『オシアナとその他の作品集』の出版は、共和主義者で、その規範となる書物のリプリントや編集に力を注いだ非国教徒であるトマス・ホリスが資金援助して出版されたもので、標題紙に「自由の帽子」(liberty-cap) が印刷されています（写真参照）。



ハリントン『オシアナとその他の作品集』(1771)
標題紙中央に「自由の帽子」がある。

第II部には、スコットランド啓蒙思想家を代表するケイムズ卿、デイヴィッド・フォーダイス、アダム・ファーガスンらの他、『ロビンソン・クルーソー』で知られるデフォーの風刺的な著作3点や『ガリバー旅行記』で有名なスウィフトのイギリス政府を批判する著作などが展示されました。

第III部では水田名誉教授の研究の中核であるスミスの『道徳感情論』や『国富論』の諸版を中心に、フランスの冤罪事件として有名で、宗教的寛容を主張してヴォルテールも関与したカラス事件関係の資料などが含まれ、特に『道徳感情論』は、初版本（1759）の他に、3つのフランス語訳、即ちエイドゥ訳、ブラーヴェ訳、及びコンドルセ夫人訳が揃って展示され、スミ



スミス『道徳感情論』初版（1759）

スの思想のフランスにおける導入が紹介されました。第IV部は、本展示会を特徴づけるもので、スミスを継承したジョン・ミラー、ジョン・ブルース、ウィリアム・バロン、ニューカム・キャップらや、スミスに批判的であったトマス・リードやジョージ・ホーンが含まれるほか、『道徳感情論』の影響を受けたフランスの作家、思想家であるバンジャマン・コンスタンの著作2点が展示されました。全展示資料については、図書館ホームページ <http://www.nul.nagoya-u.ac.jp/event/index.html> をご覧ください。



展示会の風景

水田文庫は、本年度末にはOPACやNACSIS Webcatで検索できるようになる予定ですので、研究資料としてご活用いただければ幸いです。

(なかい・えりこ

附属図書館研究開発室研究員)

《図書室紹介シリーズ》

文学図書室のいま

棚 橋 是 之

文学部・文学研究科の建物（文学部棟）は、中央図書館から構内道路を1本隔てた南側にあり、文学部棟の玄関を右側の廊下の右側に図書事務室と書庫（集中図書室）があります。2007（平成19）年度に図書以外の事務組織が文系総合館に統合移転して以来、図書室前の廊下はおおむね静かです（統合移転前は図書室の向かいの部屋が文学部の事務室でした）。集中図書室には図書事務室を通過して入室しますが、ここには文学図書室の全蔵書（約28万冊）の1割程度しか収蔵されていません。残りの蔵書はすべて研究室・リテラチャーラボ（リテラボ）等に配置されていて、このことが文学図書室の大きな特徴となっています。

文学図書室の沿革を簡単に振り返ってみると、1962（昭和37）年度に名古屋城周辺地区から現所在地に移転した際、文学部ではすべての専攻の研究室・読書室（現在のリテラボに相当）で所蔵・管理を行う方式が採用されました。この方式は、文学部が名古屋城周辺地区にあった頃から行われてきたようです。以来長期にわたりこの方式で運営されてきましたが、2002（平成14）年度に文学部棟の耐震改修が行われた際、新たに書庫と閲覧スペースを設置することになり、ひとつの転機を迎えました。ここには学部全体で共通して利用可能な辞書・叢書類および他機関の紀要の一部を収蔵することになり、各研究室からは共通利用が可能な資料の移管が行われました。その後、2003（平成15）年度に、地理学研究室が環境総合館に移転し、2008（平成20）年度に情報文化学部棟にあった日本文学研究室が文学部棟に移転してきました。また、2009（平成21）年度に社会学・心理学の各研究室が情報文化学部北棟に移転し、現在に至っています。今年度は、集中図書室に残されたわずかな書架スペースを使用して、研究室配置資料のうち、共通利用可能な図書・叢書類を集中図書室へ追加移管を行う準備をすすめているところです。また、集中図書室配置の図書の貸出・返却業務は、今年度から中央館などと同様、図書館

業務システムにより行っています。

さて、研究室に配置されている資料の利用を希望される場合、OPACで表示された配置箇所に直接訪問していただくことになります。現在、OPACで表示される配置箇所は集中図書室を含めて26箇所ありますが、実際にはリテラボのほか、各教員の居室や院生室などにも分散して配架されていますので、実際の配置箇所はもっと多くなっています。研究室配置資料を利用のため訪問した際、リテラボで授業やゼミが行われていたり、研究室のメンバーが不在のため、ただちに利用できないことがあります。そこで、研究室配置資料の利用にあたっては、事前に図書事務室へ照会していただくことを推奨しています。照会があった場合、当方から研究室に対して資料の利用の可否を照会のうえ、利用可能であれば図書事務室で取りおろすか、研究室において優先的に利用できるようケース・バイ・ケースで調整を図っています。ただし、前述の理由で研究室配置図書の閲覧等を希望される際は時間的に余裕をみていただくことを推奨しています。当方としても、限られたスタッフのなか、研究室配置資料の利用にあたっては、まずどの部屋を訪ねればよいか、あるいは訪問可能な時間帯についての情報収集を常日頃から行うことにより、調整にかかる時間短縮を図るようにしています。

課題としては、教育・研究の充実に伴って増え続ける蔵書の収納に苦慮している研究室が多いこと、また、集中図書室においても他機関からの紀要類を保存するために当初確保していたスペースが満杯になっており、学術機関リポジトリ等オンラインで全文が利用可能な状況が生まれてきていることなどを踏まえた収蔵方針の策定を迫られていることが挙げられます。また、今回の移管を実施することに伴い、集中図書室の空きスペースが大きく減ることになるため、研究室からの移管希望をどのように調整するかも検討する必要があります。

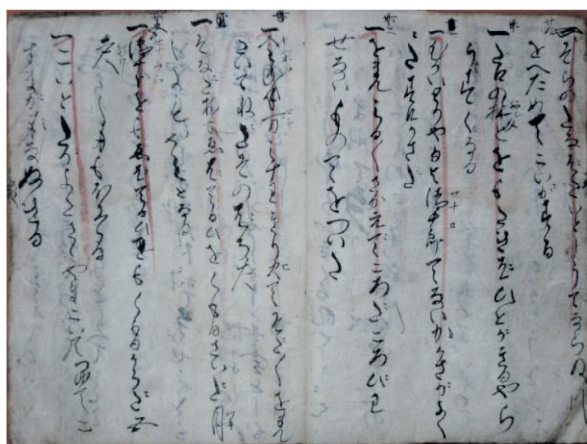
ここまでは一般的な図書についての紹介でし

たが、文学部・文学研究科では、真継家文書をはじめとする文書類・貴重資料を所蔵しており、これらは、平成14年度に行われた耐震改修の際に整備された貴重図書室・貴重資料室に保管されています。閲覧等にあたっては、古文書の取り扱いに関する規程が別途制定されていますので、事前に利用日時を打合せのうえ、規程に基づいてご利用ください。

<参考資料>

- 名古屋大学文学部二十年の歩み (1968)
- 名古屋大学五十年史 部局史一 (1989)
- 久宗順子「文学部図書的第一步」
(館燈No. 148(2003), p. 7-8)
- 創立六十周年名古屋大学文学部のあゆみ (2007)

研究室配置資料の一例 (日本文学研究室に配置)



『歌の本』延宝8年(1680)書写。
出羽酒田辺で唄われた音頭の歌詞を収めた歌謡集。

(たなはし・これゆき
文系総務課図書グループ)

第2回図書館をよくする学生アイデアコンテスト報告

附属図書館では昨年度に続き、図書館をよくするためのアイデアコンテストを行いました。今回は、附属図書館を便利で快適なスペースとするための身近で具体的なアイデアを募集する第1部門と図書館をよりよくするための大きなアイデアや夢を語っていただく第2部門に分けて募集しました。

コンテストには、11月末の締め切りまでに第1部門7件、第2部門5件、計12件の応募がありました。館内の選考委員会による選考を行い、よいアイデアが応募されてはいましたが、いま一步踏み込みが足りないなどで、今回は優秀賞・佳作ともに該当なしという結果になりました。

12月20日(月)には、アイデアコンテストの応募者を中央図書館に招いて、松浦附属図書館長との懇談会を行いました。昼食をとりながらの懇談は和やかに進み、館長からは提案された

アイデアをどう発展させたらよいかなどのアドバイスもありました。

最後に館長から、今後も利用者と一緒に図書館の可能性について考えてみたい、と締めくくりの言葉がありました。



館長とアイデアコンテスト応募者との懇談

(情報サービス課)

ホームカミングデイ図書館行事

平成22年10月16日(土)に、第6回名古屋大学ホームカミングデイ 地域と大学で考える「人・生命・未来」が開催されました。中央図書館でも図書館見学ツアー、オープンライブラリー、スライドショーを行いました。中央図書

館では秋季特別展が開催中であり、約200名の方がホームカミングデイで入館されました。また、豊田講堂ピロティでは、本のリユース市を開催しました。

秋季特別展は、水田文庫新収蔵記念の「アダ

ム・スミスと啓蒙思想の系譜」(9時30分～17時)で、西欧近代思想史の一大コレクションの一端を見ていただきました。88名の方が入場されました。

図書館見学ツアーは、10時から15時までの間、30分間隔でスタートし、約30分程度かけて職員が館内をご案内しました。ふだん大学の図書館に入ることはない方々に、広い図書館、100万冊を超える蔵書や、情報機器などの設備を、またラーニング・コモンズでは大学図書館の新しい姿を、見ていただくことができました。今後図書館を利用したいという声もありました。47名の方がツアーに参加されました。



図書館見学ツアーの様子

職員の案内はிரらない、自由に館内を見学したい、という方のために、オープンライブラリーとして8時45分の開館から17時の閉館時まで中央図書館を開放しました。おもいおもいに館内を見学されていました。

また、10分程度で図書館の概要などを紹介するスライドショーを、開館時間中、2階南側の参考カウンターの前で繰り返し上映しました。

「本のリユース市」

—ご来場ありがとうございました—

ホームカミングデイにおいて、豊田講堂南側ピロティーを会場として、今年度で3回目となる附属図書館主催の「本のリユース市」が開催されました。

この「本のリユース市」は、改訂版が出て版が古くなった図書や、書棚が手狭になり処分せざるを得なくなった重複図書など、学内で不用

となり除却された図書を有効活用しようという趣旨で始まったものです。

「本のリユース市」の開催に当たっては、図書館の職員が業務の合間をみて除却手続きの済んだ図書のラベル剥がしを行うなど、少しずつ出品図書の準備を進めてきました。

開催当日は、来場者への対応、本の販売、書棚の整理など大忙しでしたが、図書館職員3名のほか、学生スタッフ5名(会場整理等)と名大生協(販売)の協力を得ながら、無事、盛況のうちに終了することができました。

この「本のリユース市」で購入いただいたり無償でお持ち帰りいただいた図書が、それを必要とする方々のもとで再度活用されることを願ってやみません。

最後に、今回の「本のリユース市」開催にご協力いただいた関係各位に、深く感謝申し上げます。



リユース市の様子

○「本のリユース市」の来場者および販売実績

- ・入場者は1,000名
(内、購入者362名 入場者の36.2%)
- ・会場に持ち込んだ有料分冊数 4,910冊
(全集・セット物を含む)
売上冊数 1,191冊(有料分の24.2%)
売上金 132,600円
- ・会場に持ち込んだ無料分冊数 320冊

この販売収益金は、学生によって選書される学生のための図書購入費用に充当する予定です。

(情報管理課、情報サービス課)

《利用者からみた図書館》

図書館とのパートナーシップについて

水川敬章

あらためて振り返るまでもなく、私は名古屋大学の図書館（分室）のスタッフの皆さんに支えられ、研究活動を継続してこられた。何度も図書館のスタッフに助けられ、蔵書の恩恵にあずかり、論文執筆や学会発表を行うことができた。感謝の念に堪えない。私の研究分野は専ら雑誌・書籍・映像資料を対象とするが、このような研究スタイルの場合、図書館とのパートナーシップが大切になってくる。私は、個人的には、実に望ましいパートナーシップを築くことができたと考えている。

この個人的な経験から明言できるように、名古屋大学の図書館は、研究機関の図書館としての責務を果たしている。また、同時に、公共図書館としてのひらかれた知の空間でもある。とりわけ、中央館は、学部生や一部大学院生にとっては資格試験の勉強の場ともなっているようだ。この点に鑑みてもまた、名古屋大学の図書館はひらかれた空間だと言える。図書館がひらかれ、多くの人々に利用されるのはとても幸せなことである。これは異論の余地のない見解だろう。しかしながら、この見解について、個人的には次の条件が必要だと考えている。つまり、〈蔵書が多くの人々に利用される空間として図書館が機能する場合において〉という条件である。私は、〈大学という研究機関＝教育機関の附属図書館である限り、学究のために蔵書や空間が利用されるべきだ〉という考えを持っている。これは、ある人々からすれば自明のことであり、またある人々からすれば実に保守的な考え方でもある。この考え方を持つが故に、先の条件が必要だと述べたのである。

この考え方ははっきりと持つようになったきっかけは、中央図書館利用者のマナーの悪さを目の当たりにしたことにある。私が驚きを禁じ得なかったのは、特に試験期間中の館内の状況であった。ゴミ箱に弁当ガラや飲料の容器が溢れていたり、新刊雑誌の閲覧コーナーで学生が大声でじゃれ合って遊んでいたり、地下1階の雑誌フロアでは、収蔵されている資料とは無関

係の試験勉強のために机を占拠したりと、およそ「まとも」な大学生とは思えない蛮行(?)の数々を目撃したのである。私は、このような研究に支障が出る環境は問題であるし、そもそもここは自習室ではなく図書館ではないか、と思った。かくして私は図書館に苦情を申し立てたのだが、図書館の対応は素早かった。すぐさま図書館のスタッフと面談する機会を設けてくださり、学生への注意喚起を強化する方策をたてて実行された。確かに、現在でも年2回の試験期間中の中央館は雑然としているものの、随分と改善された。

先に述べた、図書館とのパートナーシップとは、ただ図書館の人的・物的な恩恵にあずかることを指しているのではない。図書館の改善に寄与するために、利用者側から意見を述べ、時に苦言を呈するような関係性もそこには含まれる。図書館が提供するサービスをより良いものにするために、あるいは研究機関の図書館としてより充実した展開が可能となるように、利用者もまた図書館に能動的に働きかけなければならないと、私は考えている。

そこで、この場を借りて、ひとつ提案をしてみたい。例えば、大学院修了生に対して学外の一般利用者とは異なる貸出冊数や利用権限を与えてみては如何だろうか。研究職への就職難の昨今、特に、人文科学系の修了生は、学籍を失った後も非常勤講師などフリーランスとして厳しい経済的環境の中で研究を継続し、永遠とも思われる就職活動に堪えている。このような人々は、図書館に堆積する知の資源＝蔵書の数々を活か／生かして社会に還元する存在でもある。試験勉強のために図書館を雑然とした自習室に変容させる学生と、図書館の資源を活かす修了生と。前者だけに有利な状況が、果たして図書館にとって望ましい状況であるのだろうか。研究機関における公共空間のあり方の問題のひとつとして、このことを一度考えていただきたい。

(みずかわ・ひろふみ)

日本学術振興会特別研究員、日本文化学)

本学教員著作物の寄贈リスト

中央図書館では、教員著作物等を積極的に収集しています。平成22年9－11月は下記の図書を寄贈していただきました。ここにあらためてお礼申し上げます。

(寄贈者の敬称は略します。)

所 属	寄贈者名	寄 贈 資 料 名	資料 I D	配置場所
留学生センター	靱 山 洋 介	認知言語学入門 / 靱山洋介著. 一研究社, 2010. 10	11721201	中央学 3F 801. 04/Mo
文学研究科	和 田 光 弘	歴史の場：史跡・記念碑・記憶 / 若尾祐司, 和田光弘編著. 一ミネルヴァ書房, 2010. 5. 一(Minerva西洋史ライブラリー; 87)	11709209	中央学 3F 230/W
文学研究科	神 塚 淑 子	『老子』：「道」への回帰 / 神塚淑子著. 一岩波書店, 2009. 11. 一(書物誕生：あたらしい古典入門)	11697045	中央学 3F 124. 22/Ka
教育発達科学研究科	松本 真理子	子どもの臨床心理アセスメント：子ども・家族・学校支援のために / 松本真理子, 金子一史編. 一金剛出版, 2010. 9	11721444	中央学 3F 146. 82/Ma
国際開発研究科	大 橋 厚 子	世界システムと地域社会：西ジャワが得たもの失ったもの 1700-1830 / 大橋厚子著. 一京都大学学術出版会, 2010. 7. 一(地域研究叢書； 21)	11721443	中央学 3F 319. 242/0
文学研究科	中 村 靖 子	ハイデガーにおける「詩作と思索」：「被投性」の視点から / 斧谷彌守一, 中橋誠編. 一日本独文学会, 2008. 10. 一(日本独文学会研究叢書； 058)	11722479	中央図 4F 134. 96/Y
文学研究科	中 村 靖 子	「悪」の文学史：グリム, ホフマン, トラークル, イェリネクを道標として / 中村靖子, Hans-Michael Schlarb編. 一日本独文学会, 2010. 10. 一(日本独文学会研究叢書； 71号)	11722497	中央図 4F 940/N
文学研究科	中 村 靖 子	言語表象と脳機能から見た環境哲学の拠点形成 / 中村靖子 [ほか著]. 一[出版者不明], 2006. 5	11722480	中央図 4F 112/N
文学研究科	中 村 靖 子	言語表象と脳機能から見た環境生成のメカニズム：生きられる空間の複相性をめぐって / 中村靖子編. 一名古屋大学大学院文学研究科, 中村靖子, 2008. 3	11722481	中央図 4F 112/N
文学研究科	中 村 靖 子	科学的理性と詩的構想力との相互作用に関する学際的研究 / 研究代表者中村靖子. 一中村靖子, 2010. 3	11722498	中央図 4F 901/N
文学研究科	羽 賀 祥 二	霊魂・慰霊・顕彰：死者への記憶装置 / 國學院大學研究開発推進センター編. 一錦正社, 2010. 3	11722485	中央図 4F 175. 1/Ko
教育発達科学研究科	李 正 連	한국 '사회교육'의 기원과 전개 / 이정연. 一학이시습, 2010. 9. 一(평생교육역사연구)	11723044	中央図 1F 372. 21/I
文学研究科	和 田 壽 弘	Indian philosophy and text science / edited Toshihiro Wada. 一1st ed. 一Motilal Banarsidass Publishers, 2010	41515825	中央図 4F 126/W
国際言語文化研究科	松 岡 光 治	ギヤスケルの文学：ヴィクトリア朝社会を多面的に照射する / 松岡光治編. 一第2刷. 一英宝社, 2010. 9	11724870	中央学 3F 930. 268/Ma
国際言語文化研究科	松 岡 光 治	エリザベス・ギヤスケルとイギリス文学の伝統：生誕200年記念 / 日本ギヤスケル協会編. 一大阪教育図書, 2010. 9	11726149	中央学 3F 930. 268/N
国際言語文化研究科	松 岡 光 治	ギヤスケルで読むヴィクトリア朝前半の社会と文化：生誕二百年記念 / 松岡光治編. 一溪水社, 2010. 9	11726150	中央学 3F 930. 268/Ma

所 属	寄贈者名	寄 贈 資 料 名	資料 I D	配置場所
教育発達科学研究科	李 正連	일본의 사회교육·평생학습 : 풀뿌리 주민 자치와 문화창조를 향하여 / 小林文人, 伊藤長和, 양병찬 공편. - 학지사, 2010. 10	11726267	中央図 1 F 379. 1/Ko
経済学研究科	家森 信善	地域の中小企業と信用保証制度 : 金融危機からの愛知経済復活への道 / 家森信善編著. - 中央経済社, 2010. 9	11726264	中央学 3 F 338. 63/Y
法 学 研 究 科	高橋 祐介	実践ガイド企業組織再編税制 : グループ法人税制対応 / 竹内陽一 [ほか] 著. - 清文社, 2010. 11	11726265	中央学 3 F 336. 98/Ta
環境学研究科	森川 高行	道路は、だれのものか : 交通革新モデル「駐車デポジットシステム」のインパクト / 森川高行著. - ダイヤモンド社, 2010. 9. - (Global IT innovator)	11727696	中央学 3 F 685. 13/Mo
文 学 研 究 科	金山 弥平	自然学者たちへの論駁 ; 倫理学者たちへの論駁 / セクストス・エンペイリコス [著]; 金山弥平, 金山万里子訳. - 京都大学学術出版会, 2010. 11. - (西洋古典書. 学者たちへの論駁 ; 3)	11726904	中央学 3 F 131. 7/Se
教育発達科学研究科	石井 秀宗	地域におけるデータ等を補完的に用いた調査分析手法の調査研究 : 学力調査を活用した専門的な課題分析に関する調査研究 : 平成21年度文部科学省企画公募委託研究 : 報告書. - 石井秀宗, 2010. 4	11727697	中央図 1 F 375. 17/I
生命農学研究科	山田 容三	森への働きかけ : 森林美学の新体系構築に向けて / 湊克之 [ほか] 編 ; 特装版. - 海青社, 2010. 10	11729088	中央学 3 F 650. 4/Mi

[行事等] <22. 9. 6 ~ 22. 12. 5>

- ・ 図書系職員研修「図書の出版・流通動向」(中央図書館) 参加者 : 22名 <9/22>
- ・ 平成22年度図書館等職員著作権実務講習会(神戸大学) 参加者 : 安福奈美(中)、吉岡美智子(工) <9/28-9/30>
- ・ 平成22年度大学図書館職員短期研修(京都大学附属図書館) 参加者 : 浅見沙矢香(農) <10/5-10/8>
- ・ 東海北陸地区国立大学図書館協会「デザイン・コーディネート講習会」(中央図書館) 参加者 : 60名 <10/8>
- ・ トークサロン「ふみよむゆふべ」演題 : 「『酒飯論絵巻』に描かれる食物について-赤米(あかごめ)を中心として-」(中央図書館) 講師 : 伊藤信博(国際言語文化研究科助教) 参加者 : 39名 <10/26>
- ・ 東海地区医学図書館協議会平成22年度東海目録研修会及び実務担当者会議(医学部第2講義室) 参加者 : 48名 <11/5>
- ・ 図書系職員研修「講習会スキル」(中央図書館) 参加者 : 21名 <11/24>
- ・ トークサロン「ふみよむゆふべ」演題 : 「『老子』の誕生と歴史」(中央図書館) 講師 : 神塚淑子(文学研究科教授) 参加者 : 52名 <11/30>
- ・ 平成22年度第4回目録システム講習会(雑誌コース)(国立情報学研究所) 参加者 : 吉岡美智子(工) <12/1-12/3>
- ・ 平成22年度法令・議会・官庁資料研修(国立国会図書館) 参加者 : 藤井洋子(法) <12/2-12/3>
- ・ 工学図書室利用細則改正(平成22年11月24日改正、平成23年4月1日施行)
第2条の材料系図書室と建築学図書室の項を削除

編集委員会

- 増田 晃一(委員長) 次良丸 章(中)
- 安福 奈美(中) 森 彩乃(中)
- 久納 優希(文) 山本 利幸(法)
- 神谷 知子(保健) 吉岡美智子(工)